○議長（川﨑和夫君）　８番　前原英石君。

○８番（前原英石君）　おはようございます。

ことしも残すところ、あと２週間余りとなりましたが、１２月１日に２０１７年新語・流行語大賞が都内で発表されました。今年の年間大賞は「インスタ映え」「忖度」の２語に決定をいたしました。

私自身、強く印象の残っている言葉が、ことし政治の場でたびたび使われてきました「忖度」であります。モリカケ問題をきっかけに、首相の気持ちに配慮したを意味する言葉として印象づけられましたが、皆さんご承知のとおり、辞書では、「忖度」とは「相手の気持ちを推しはかること」、また「推察」と書かれております。また、小さい子どもたちには、もっとわかりやすく、相手が何を言いたいか考えることと教えてあげればいいのではないかと書かれておりました。言葉自体は悪い意味の言葉ではないと思いますが、今回のことであまりよくない言葉として心に残りました。

これから質問に入りますが、今回の質問は、小中一貫に伴う部活動、スポーツ、文化に関する長期的ビジョンについて行いますが、答弁者の方には、私の質問を忖度していただければと思うわけですが、小中一貫教育を今後ますます深みのあるものとしていくため、また小中学校の児童生徒に一貫した知育・徳育・体育のバランスのとれた教育を推し進めていくための質問でございますので、私の気持ちを十分推しはかっていただき、しんしゃくしていただければと思います。

それでは本題に入りますが、金森村長の提案理由説明の中にもありましたが、こども園から小学校、中学校と各１施設が存在するという特徴を生かし、舟橋村だからこそ可能となる育ちと学びの環境を整えていくと言っておられました。

そのような特徴のある環境の中で、舟橋村の小中一貫教育については、順調にその成果を上げておられ、教育関係者など多方面から注目もされており、今後についても大きな期待を持っております。

しかし、一方では、今後の小中学校の児童生徒数の減少も危惧され、村としても知恵を絞りさまざまな施策を展開し、地方創生に向けた取り組みを続けてきておられます。

そこで、今回は、部活、スポーツ、文化などについての一貫教育とその長期的なビジョンについてお聞きいたします。

まず、現在部員不足で苦慮している部活があると聞いておりますが、今後予想される小中学校の児童生徒数の推移と、それに準じた適正と考えられる部活数についてお聞き

します。また、今後の長期ビジョンを考える中で、舟橋村で伸ばしていきたい、残していかなければならないと考える部活、スポーツは何でしょうか、あわせてお聞きします。

次に、部活、スポーツなどに対して小中学校の児童生徒から希望や意見を聴取するなどし、小学校から中学校につながるような考え方での取り組みも必要であると考えますが、一貫した体育の必要性について、どのように考えているのかをお聞きします。

次に、村の子どもたちが、国や県レベルのスポーツ大会で好成績をおさめ、村民に元気や勇気を与えてくれたり、文化的な活動でも多くの賞を受賞するなど、一村一校という環境の中で本当によく頑張ってくれていると感じておりますが、村として子どもたちの無限の才能を伸ばしていくためには、一貫教育を生かした支援計画も必要と考えますが、これについてもビジョンをお聞かせください。

最後に、子どもたちが部活動を活発に行っていくためには、その環境についてもビジョンに基づいて整備し、部活動の質の向上を図っていくことが必要と考えます。

現在、老朽化した備品、また廃棄処分されてもおかしくないような使用不能な機材が見受けられますが、今後更新するなり廃棄するなり早急に対処願いたいと思いますが、これまでそれらの現状把握や点検については、学校側だけの判断で行っておられるのですか。学校側から出てきたものだけに措置を行うだけではなく、教育委員会でも定期的に部活現場に出向き、実態について把握していけば、計画的な対処も可能となると考えますが、現状はどのようにしておられるのかお聞きします。

以上4点について答弁を求めますが、ことし最後の質問であります。9月から議会がネット配信もされており、視聴者の方にもわかりやすく、個々について抽象的答弁ではなく、簡潔かつ明快で前向きな答弁をいただき、よい年を迎えたいと思います。

舟橋村の子どもたちの未来のために行った質問でございますので、ぜひとも私の真意を忖度していただければと思います。

これで質問を終えさせてもらいます。

ありがとうございました。

○議長（川﨑和夫君）　教育長　髙野壽信君。

○教育長（髙野壽信君）　8番前原議員のご質問にお答えします。

部員不足で苦慮している部があるとありますが、野球部が3年生卒業後に部員数が7名になり、秋の新人戦で舟橋中学校単独でチームを結成することができなかったことではないかと思います。今年度は高志野中学校も部員数が5名ということで、高志野中学

校と合同チームを作成し、１２名でチームを結成し、大会に参加しました。同じ野球に情熱を燃やす他校の生徒と気持ちを一つにし、協力して競技をしたことは、生徒たちにとってよい経験になったのではないかと思います。

現在、小学６年生が３名、５年生が７名在籍している少年野球チームが優勝するなどよい成績を上げておりますので、中学校の野球部に入部してくれることを期待しているところです。

部活動のあり方、適正数についてお尋ねですが、部活動は、同じ目的を持つ生徒が教職員の指導のもと、自主的・自発的に活動し、協力や思いやりの心を身につける活動の場であるとともに、教職員と生徒が信頼感を育てることのできる生徒指導上有意義な教育活動の場でもあると考えております。

残す・残さない部はとありましたが、部活動はあくまで学校教育の一環ですので、小規模校とはいえ、施設設備の状況、教職員の実態や生徒、保護者の要望に応じて、可能な限り中学校体育連盟の認定している部活動を開設し、子どもたちの選択肢を広げ、活躍の場を確保してやりたいと考えております。

次に、一貫教育の必要性についてですが、今述べましたように部活動も学校教育の一環ですので、今まさに取り組んでいる小中一貫教育の研究の中で、部活動についても９年間のカリキュラムを作成しております。

具体的には、小学６年生で部活動体験を実施し、スムーズに部活動に入部できるようにするとともに、部活動は原則全員入部制であり、３年間の継続した活動を目的としていますので、中学生に入学した後もなお１０日間の体験入部を実施し、子どもたちの考え、保護者の考えも聞きながら慎重に希望の部活動を決定させております。

一貫教育を生かした支援計画についてですが、議員さんが称賛されましたように、児童生徒があらゆる場面ですばらしい活躍を見せてくれています。このような児童生徒のますますの活躍を期待し、その力をさらに伸ばす環境の確保と、また全ての児童生徒の育ちの環境を整えるなどの支援は、我々の責務であると考えております。

今、一貫教育に取り組み、１１月の中間発表では、県内からたくさんの先生方に参観していただき、一定の評価を得ました。今後、これまでの成果を調査・分析・検証してまいりますが、当然部活動の取り組みについてもその対象となります。児童生徒の取り組み、考えもアンケート調査等で詳細に分析し、今後の指導に、そして支援に生かしていきます。

研究指定を受けたことにより一貫教育が大きくクローズアップされていますが、教育環境の整備・充実については、常に村の重要施策として取り組んでいただき、地域、村民の皆さんの長期的で一貫した支援、見守りをいただいております。たくさんの児童生徒の活躍は、これらの成果であるとも考えております。

今後もこのような理想的な教育環境を維持・継続できるよう、議員の皆様、村民の皆様のご協力、ご指導を改めてお願いしたいと考えております。

最後に、部活動の備品の管理者についてのご質問ですが、実質的には、部活動顧問が行っております。廃棄や新規購入に関しましては、その都度情報をもらい、予算要求を行っております。現在のところ、特に要望は聞いておりません。

以上で、前原議員さんのご質問の答弁とさせていただきます。

○議長（川﨑和夫君）　前原英石君。

○８番（前原英石君）　再質問を行います。

冒頭に、舟橋小・中学校の児童生徒が減少して危惧されるというようなことを言っておりましたが、将来どういうふうな生徒の推移になるかというのはちょっと抜けていたかと思いますので、そのへんについてお聞きしたいのと、それにあわせて、スポーツの長期ビジョンということでお伺いしたんですけれども、ビジョンということについては、何かちょっと見えないなというふうな思いをしておりました。

また、質問の中で、舟橋村で長年、野球とかは継続的にずっと続けてきたわけですが、例えば、野球部が部員数が少なくて成り立っていないと。いい面もたくさんあるかもしれないがというふうには思うわけですけれども、教育長自身、その部活動、例えば残していきたい、伸ばしていきたいというものについて、具体的な思いというものは持っておられないのでしょうか。

そういうことについて、３点ですか、お聞きしたいと思いますが、よろしくお願いいたします。

○議長（川﨑和夫君）　教育長　髙野壽信君。

○教育長（髙野壽信君）　部活動について、今後どのようにとお尋ねと判断させていただきますが、まず改めて、野球部、残す・残さないという質問だったと思うのですが、あくまでも、先ほども述べましたが、教職員の実態、施設設備の状況、それから生徒、保護者の要望に応じて、可能な限りつくっていきたいと、そのように考えております。

野球部を残す・残さないということ等については考えておりません。また、別の部に

ついても同様であります。

現在、過去に全国ベストエイトまで行った卓球の女子ですが、部員がおりません。いなくなっていますので、その部は、開設はしておりますが、現在指導はありません。

野球についても同様であります。また、その他のものについても、子どもたちがやりたいといえば、その部は実施してやりたいものと思っております。

例えば、剣道部等について舟橋でつくったというようなことがありましたら、その剣道部の顧問がいなくなったとき、誰かがやれるのかといったようなことも考えながら部は開設するものと思っております。

どの部を残す、どの部を残さないという考えは、私にはありません。子どもたちがやりたいという部について進めていこうと思っております。

あと、長期ビジョンが抜けているということでしたけれども、これについても同じようで、常に子ども、保護者の意見を尊重して進めていきたいと考えております。

私個人として、部活動は、このようにしていくということはありません。あくまでも、子ども、保護者の選択について進めていきたいと思います。

お答えしているうちに、もう一点、忘れましたけれども、今ので答弁とさせていただきます。

○議長（川﨑和夫君）　前原英石君。

○８番（前原英石君）　最初に言いました今後の児童生徒数についての答弁がなかったかと思います。

それと、今話を聞いていると、教育長という立場は変わってきたわけですが、何か周りの成り行き任せということで、長期ビジョンに全くつながっていないなというふうな考えを受けました。

やっぱり、きちっとした柱の中に父兄の意見、子どもの意見を取り入れていきながら進めていくという形でビジョンというものは必要かと思いますが、とりあえず、今、生徒の今後の推移についてということでお聞きをいたします。

よろしくお願いいたします。

○議長（川﨑和夫君）　教育長　髙野壽信君。

○教育長（髙野壽信君）　大変失礼しました。児童生徒数の今後でありますが、今現在わかっているところで、来年度の小学１年生までですが、３３名から４２名ぐらいの間で推移をしていきます。ですから、今現在、中学校の生徒数は１１５名ですが、この後も

う少し増えた生徒数で続けていくものと思っております。

　もう一点については、同じように、成り行き任せという言い方もされましたけれども、やはり、何度も繰り返しますが、子ども、保護者の希望に応じて部をつくっていきたいと思っております。

　小さい学校とはいえ、舟橋中学校に行ったら、こういう部はないんだと言われることのないように、一つでも多く増設してやりたいというのが私の願いであります。

　以上で答弁を終わらせていただきます。